

数学B

1. 学習の到達目標

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に習得し、本質や背景を理解しようとする態度を育てる。
- (2) 問題解決に際し、数学的論拠に基づいて試行・判断し、自らの考えを表現・検証できる能力を育てる。
- (3) センター試験や大学入試個別問題の研究を通じ、入試問題に適應できる学力を身につける。

2. 使用教科書：新編 数学B（東京書籍）

3. 指導計画

学習時期		単元／学習事項	学習のねらい	
	文系	理系		
2 年	4月	4月	第2章 ベクトル 平面上のベクトル(有効線分とベクトル、ベクトルの加法・減法・実数倍、ベクトルの成分、ベクトルの内積)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの和・差・実数倍などを求める。 ・ベクトルを成分表示で表し、成分計算ができる。 ・ベクトルの内積の考え方を理解し、問題が解ける。
	5月	5月	ベクトルの応用(位置ベクトル、ベクトルの図形への応用、ベクトル方程式)	<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトルの考え方を理解する。 ・一直線上にあることを位置ベクトルを用いて証明する。 ・二直線の交点の位置ベクトルを求める。 ・ベクトル方程式を用いて図形や領域を図示することができる。
	6月	6月		
	7月	7月	空間におけるベクトル(空間座標、空間のベクトル、ベクトルの内積、位置ベクトルと空間の図形)	<ul style="list-style-type: none"> ・空間座標を理解し、座標の計算をすることができる。 ・空間においてもベクトルが有効であることを理解させ、それを用いてさまざまな問題が解ける。
	8月			
	9月	8月	第1章 数列 数列(数列、等差数列、等差数列の和、等比数列、等比数列の和)	<ul style="list-style-type: none"> ・初項と公差を用いて一般項を求め、和の公式を用いて、等差数列の和を求める。 ・初項と公比を用いて一般項を求め、和の公式を用いて、等比数列の和を求める。
	10月	9月		
	12月	10月	いろいろな数列(いろいろな数列の和と記号 Σ 、階差数列と数列の和)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なΣの公式を用いて一般的な方法で和を求める。 ・群数列の考え方を理解し、問題が解ける。 ・階差数列を用いて一般項を求める。
	1月	11月	漸化式と数学的帰納法(漸化式、数学的帰納法)	<ul style="list-style-type: none"> ・二項間の漸化式から一般項を求める。 ・数学的帰納法を理解し、これを用いて証明ができる。
	2月			
	3月			
		<文系>数学I A II Bの演習		<ul style="list-style-type: none"> ・記述試験に向けて、様々な記述問題を解くことができる。
	<理系>【数III】 第2章 複素数平面 複素数平面(複素数平面、複素数の極形式)		<ul style="list-style-type: none"> ・複素数の演算を平面図形で表せるようになる。 ・複素数を平面上の点として表すことができる。 ・複素数の極形式を理解し、回転移動との関係を理解する。 	
	1月			
	2月	図形への応用(ド・モアブルの定理、図形への応用)	<ul style="list-style-type: none"> ・ド・モアブルの定理を理解し、演算に利用できる。 ・点や図形を複素数を用いて表現できる。 ・偏角を用いて、三角形の性質を考えることができる。 	
	3月			

4. 評価規準と方法

【評価規準】

- 積極的に学習に参加し、学習内容を理解しようとしている。
- 定義の意味やその特性および公式の性質を理解している。
- グラフや公式を活用し、いくつかの側面から問題を捉え、解法に結びつけることができる。
- 的確な表現を用い、説明できる。

【評価方法】

定期考査、小テスト、確認テスト、提出課題および提出状況、学習活動への取り組み方